

紐帯としての日本語[※]

～「日本」を離れた日本語

日時：2015年6月26日（金）17:40-19:10
会場：東京外国語大学 研究講義棟104室

高嶋朋子氏（東京外国語大学 非常勤講師）

「引揚者の経験から見たことばの紐帯について

—奄美出身台湾引揚者を対象に—

本講演では、内地以上に「日本語」（「国語」）の推進が焦点化した外地に居住経験を持つ人々の、ことばをめぐる経験に着目した調査の報告を行う。具体的には、奄美群島出身者（または両親が奄美群島出身者）のうち日本統治期の台湾で生活した経験のある者、つまり奄美出身台湾引揚者を対象とした。彼らの学齢期の言語経験について、台湾で使用していた「日本語」と、引揚げ後の生活に関わってきた地域語というふたつのことばに着目して行ったインタビュー結果のまとめを、講演の要旨とする。また、本研究テーマの発展的継続の方向性についても触れる。

窪田暁氏（奈良県立大学 地域創造学部 専任講師）

「ドミニカ共和国における日系人の言語使用の実態について」

本講演の目的は、ドミニカ共和国（以下、ドミニカ）の日系人の言語使用や言語習得の実態を把握し、国内の2世・3世を含めた、移民にとっての言語の存在を故郷との紐帯という視点から考察することである。具体的には、現地調査のデータをもとに、ドミニカの日系人の言語使用や言語維持の実態について、言語能力、意識、継承の側面から明らかにする。そのうえで、こうした言語使用の背景にみられる日系人の故郷認識について考察をおこないたい。

※本研究会はJSPS科研費23310176 「〈紐帯としての日本語〉日本人社会、日系コミュニティ、「日本語人」の生活言語誌研究」の成果の一部を報告するものです



<会場アクセス>

◆JR中央線:「武蔵境」駅乗換 西武多摩川線「多磨」駅下車 徒歩5分

◆京王電鉄:「飛田給」駅北口 多磨駅行き京王バスにて約10分「東京外国語大学前」下車

お問い合わせ:東京外国語大学 国際日本研究センター
電話:042-330-5794 メール:info-icjs@tufs.ac.jp